
オレオレ Lua L^AT_EX テンプレートの使い方

易 翠衡 (@yicuiheng)
2021/5/24

1 ビルド方法

ビルドには `llmk` ^{*1} を使っています。llmk のおかげで \LaTeX コードのビルド手順を TOML 形式で記述することができます。その他にもなんか色々デフォルトの設定をモダンなかんじにしてくれてます。 \LaTeX に詳しくない筆者は取り敢えず `llmk` を使って \LaTeX 詳しい人が選んだモダンな設定におまかせしています。

このプロジェクトをビルドするにはプロジェクトディレクトリで

```
</> bash
```

```
$ llmk
```

を実行してください。llmk が `./llmk.toml` に基づいて `./main.tex` をコンパイルしてくれます。うまくいけば `./build/main.pdf` が生成されるはずです。

2 ディレクトリ構成

./	
├── .vscode VSCode の設定
├── build 生成物が置かれる場所
│ ├── main.pdf メインの生成物
│ └──	
├── src \LaTeX ソースコードを置く場所
│ ├── title.tex 表紙の \LaTeX ソースコード
│ └──	
├── style スタイルファイルを置く場所
│ ├── common.sty 普遍的に使うマクロやフォントの設定
│ └──	
├── llmk.toml ビルドの設定ファイル
├── main.tex トップレベルの \LaTeX ソースコード
└── main.bib 参考文献データ

3 フォントなど

地の文には UD デジタル教科書体を使っています。

あのイーハトーヴォのすきとおった風、夏でも底に冷たさをもつ青いそら、うつくしい森で飾られたモリーオ市、郊外のぎらぎらひかる草の波。

——宮沢賢治『ポラーノの広場』より——

The quick brown fox jumps over the lazy dog

^{*1} <https://github.com/wtsnjp/llmk>

数式には STIX2 フォントを使っています。

$$\int_0^{\pi} \sin x \, dx = 2 \quad (1)$$

$$\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^2} = \frac{\pi^2}{6} \quad (2)$$

4 数式関連

定理環境をそれぞれ用意しています。

定義 4.1: なにかの定義

なんとかかんとか

補題 4.2: なにかの補題

あんじゃらかんじゃら

証明 定義 4.1 より即座に成り立つ。

(証明終)

定理 4.3: なにかの定理

なんじゃらほい

証明 これを証明するに先だって次の補題を証明する。

補題 4.4: スーパーなにかの補題

スーパーあんじゃらかんじゃら

証明 内側の証明だよ～

(証明終)

補題 4.2 と 補題 4.4 より成り立つ。

(証明終)

これらの環境は ばるちさんのブログ記事「tcolorbox のお誘い」^{*2} と「ぼくのかんがえたさいきょうのゼミ用 TeX スタイル」^{*3} を参考にして tcolorbox で作っています。

^{*2} <https://marukunalfud0123.hatenablog.com/entry/2019/03/15/071717>

^{*3} <https://marukunalfud0123.hatenablog.com/entry/saikyou1>

5 プログラミング関係

プログラムのフォントには `inconsolata` を使っています。

インラインコードの例: `\code{hoge + fuga = piyo}` で `hoge + fuga = piyo` と表示されます。

複数行にまたがるコードの例:

</> sample

```
1 func main() {  
2     let a = 12  
3     let b = 30  
4     a + b  
5 }
```

6 参考文献関連

参考文献には `biber` ^{*4} を使っています。ようわからんけど `bibtex` の代替だそうで、ナウくて柔軟性があるらしいので採用しています。

^{*4} <http://biblatex-biber.sourceforge.net/>